

NARO RESEARCH PRIZE 2017

国際標準となった国産牛疫ワクチン

國保健浩、高松仁美、照井和哉

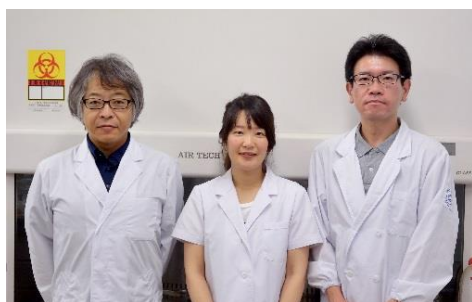
(動物衛生研究部門 疾病対策部 生物学的製剤製造グループ)

研究の目的・背景等

牛疫はウシやヒツジなどの反すう動物に対して、口蹄疫を上回る伝染性と致死性を示す史上最悪の家畜伝染病である。日本国産のワクチンは高い予防効果と安全性を備え、本病の世界的根絶（2011年）に寄与してきたが、国際的な認知度が低い。「牛疫なき社会」の維持に貢献すべく世界標準ワクチン株として国際機関の承認を目指した。

研究の概要

我が国で樹立された家兎化鶏胎化牛疫ウイルス赤穂株（L A 赤穂株）は高度に弱毒化された安全なワクチン製造用株であり、親株であるL株とともにアジア地域における牛疫の撲滅に貢献してきた。L A 赤穂株の国際標準化を図るため遺伝特性及び長期保存特性を解明し、国連及び国際獣疫事務局からワクチン製造用標準株として承認を受けた。現在国連を中心に検討が進む国際牛疫行動計画において、国際備蓄ワクチンとして本病の再発抑止への世界的な貢献が期待されている。



(左から)國保健浩、高松仁美、照井和哉